美原病院

（平成28年12月12日訪問）
平均在院日数506.1日（平成28年11月30日時点）

積極的な取り組みなど

- 平成 28 年度から退院に向けた「茶話会」を始めた。
- 以前より情報を公開しようとする姿勢を感じた。

前回の訪問（平成 24 年 2 月）から改善されていた点、未改善点等

- 前回訪問時、拘束帯が付いたままのベッドがあったが今回は、そのようなベッドは見なかった。
- 前回訪問時、入浴が週 2 回だったことについては、平成 24 年からは 6 ～ 9 月は週 3 回となっていた。A2 病棟・E1 病棟では、希望すれば入浴日以外にもシャワーを使用することができる。

病院全体

入院患者が減少したことにより、526床のうち28床が休床となっていた。

人権及びサービス向上委員会・意見箱

人権及びサービス向上委員会は、委員長は医師で2ヶ月に1回開催。意見箱は各病棟のデイルーム内に設置され、週1回委員が回収する。投書への回答は病棟内の掲示板に掲示されていた。

診察・薬

診察室は各病棟にある。看護師が病室を回り配薬する。1日・1週間分を自己管理する患者もいる。

面会

面会室は各病棟にある。面会時間は平日13:00～19:00、土日祝10:00～19:00。

金銭管理

ベッド毎にクローゼットがあり、鍵付きの引き出し（無料）が付いていた。金銭を病院に預ける場合の金銭管理料は80円/日。出金は曜日が決まっており、患者によって週1・2回など頻度が決まっていた。

PSW・退院支援

PSWは医療福祉相談室に9名在籍。認知症治療病棟は病棟担当者がいるが、他の病棟は患者毎の担当制だった。医療保護入院者退院支援委員会の退院後生活環境相談員はPSW。

病棟の様子

電話

A病棟では詰所横電話ボックス内と病棟入口近くの個室内に置かれていた。B・C・E病棟では1つずつ電話ボックスがあった。
携帯電話は、E1病棟では17時以降は原則として使用できないが、その他の時間帯は個別対応となっていた。他の病棟では、病棟内での携帯電話の使用は禁止で、詰所に預け、外出時は使用できるとのことだった。

病室

4人部屋・2人部屋・個室があった。ベッド周りにはカーテンがあった。

隔離室（A1・A2病棟に各4室）

声を出すとナースコールが詰所で鳴る。天井が高く、上部の窓から光が入ってくるため、明るかった。壁紙は全て木目調だった。衝撃を吸収する弾力性のある床と壁だった。トイレは入口から死角になっていた。水洗は、中からも外からも流せる切り替え式だった。

A1病棟　閉鎖　男性　精神一般15:1　48床

急性期の男性病棟。個別対応に力を入れており、例えば財布にチェーンを付けたいと希望する患者がいる場合、状態によっては許可するとのことだった。買物は週1回、看護師同伴で売店に行く。

患者の声

「この病棟では声を張り上げる患者がいて、騒がしくて困っている」「決められた体重をキープ出来たら、開放病棟に移れると主治医から言われている。多飲水だから毎日3回、体重を測る」「携帯は取り上げられている」「1ヶ月程前に入院した。PSWは〇〇さん。優しい」

A2病棟　閉鎖　女性　精神一般15:1　48床

急性期の病棟。数週間で退院する患者や、開放病棟に移る患者もいるが、そのままこの病棟に入院する患者もいるので、入院期間が入院直後から20年以上になる患者もいる。

患者の声

「16年以上いる。外出は売店だけ認めてもらっている」「入院して2週間。入院した当初『同意書』のようなものにサインさせられたが、書類の意味は分からなかった。でもサインを拒めなかった。そうした時に看護師が優しくしてくれたのは良かった」「おやつは1週間に1回、10人位で売店に買いに行っている」「掲示板の掲示物は今日、貼っていた」「看護師は優しい人もいるが、きつい人もいる」「入浴は入る人数が多く、慌ただしい。ゆっくり入りたい」

A3病棟　開放　男女　精神一般15:1　50床

この病棟からの退院は、2ヶ月に1名程度。退院の目処がたったら自己服薬できるよう支援する。訪問時は10名程が外出中だった。デイルームで座ってゆっくりと過ごしている患者が複数名いた。

患者の声

「売店までは自由に行ける」「入院して25年。職員は優しい人もそうでない人もいる」「困ったときは看護師に相談する」「入院して23年。母が1人で外出してはいけないと言うので、同伴外出だけ」「兄がいたときは外泊もしたが、今はできない」

B7病棟　閉鎖　男女　精神一般15:1　50床

高齢の患者が多く、車椅子使用患者が19名、ストレッチャーやベッドで移動する患者が9名との説明だった。表情は明るい患者が多かった。

患者の声

「朝食と夕食の間に3回、喫煙室に行ける」「喫煙は9:00～17:00」「2年前から色々な値段の書かれた掲示物が張られている」「看護師に言えば、同伴で病棟から出ることができる」「買物は約3ヶ月に1回位」「診察は週1回、治療計画書はある」

C2病棟　閉鎖　男性　精神一般15:1　63床

在院期間は3ヶ月～30年と幅広いが長期入院患者が中心、療養病棟の性格を持つ病棟との説明だった。売店には週1回、職員同伴で行く。

患者の声

「自由に喫煙できる。職員が敬語で話し掛けてくれる」「売店では現金か伝票で買物ができる。買物は売店以外には行かない」

E1病棟　開放　男性　精神一般15:1　34床

長期入院患者が多く、退院支援に取り組んでいる病棟との説明だった。退院計画は看護師とPSWで作成し、退院支援には基幹相談支援センターやPSW・看護師がチームとなって取り組んでいる。施設見学に行くこともあるとのことだった。

患者の声

「来月に退院が決まっている。今回の入院期間は5ヶ月間だった。アパートに戻る」「障害者手帳の取得手続きについてもPSWが手伝ってくれた」「退院支援委員会に参加している」「入院して7、8年。今は外出もできる」「たまにある茶話会に参加する」

OT室

午前(9:30～11:30)はカラオケ、午後(13:30～17:30)はカラオケと個人活動（書道・編み物等）を行っている。個人活動をしている患者もカラオケの順番が回ってくると歌っており、自由に行き来していた。ゆったりとした自由な雰囲気だった。

患者の声

「OTは自由にできるので一番楽しい」「来年5月には入院して10年になるので退院予定と聞いている」、「中型バスに乗って15人位でイズミヤやサンプラザ等へ買物に行く」「職員の言葉遣いは親しげでいい」「46歳で入院し、今68歳。月1回、兄の面会がある」「OTで本を借り、寝る前に読んでいる」

検討していただきたい事項

退院に希望の持てる情報提供や支援を

(1)　前回訪問時、平成24年2月1日の平均在院日数が850日だった。今回は506.1日だった。PSWを「知らない」「（自分のところには）来ない」「退院に向けての委員会などは参加したことはない。聞いたこともない」

との声もあった。(病院：今後も入院時の担当PSWの説明を行いながら、新たに病棟へ、文書でのPSWの紹介を掲示し、全ての患者に担当PSWがついている事を周知するよう働きかけます。今後も引き続き、患者からの要望がない場合も、病棟巡回時に面談を行ないます。普段面談を行えていない患者についても、積極的に声掛けを行なっていきます。茶話会でピアサポーターの講演や交流を通して、退院後の患者の生活を知る機会を作り、退院意欲を引き出せるよう促しながら、茶話会の開催範囲を拡大していきます。)

⑵　E1病棟では、退院先として「施設」という単語を何度も言われた。「退院＝施設やグループホーム」という制約があるのではないかと感じた。看護師に聞くと、「退院先を施設と限定しているわけではないが、男性は身の回りのことを自分でするのが苦手な人が多い」「男性はグループホームを希望する(独居を希望しない)」等との説明だった。(病院：患者には、一通りの社会資源の紹介を行なった上で、患者と病院スタッフとで、患者の現状と利用可能な社会資源とのすり合わせを行ない、グループホームや施設への退院が望ましいと判断されるケースが多くなっているが、今後は地域の機関と連携し、病棟内でも退院に向けた支援を充実できるよう働きかけ、可能な限り患者の希望に添える退院支援を行ないます。)

診察について

⑴　治療計画書は「ある」と言う患者と「知らない」と言う患者がいた。薬の説明は「聞いてない」との声が多く聞かれた。外出できない理由を知らないまま、仕方ないと思って過ごしている患者もいた。(病院：入院時には、患者に対して入院診療計画書を作成し個々に説明を行っております。診察時には、より一層丁寧にわかりやすい言葉で説明を行います。)

⑵　C2病棟では、職員から「長期間、任意入院で入院している患者の処遇の見直しは半年に1回行う」「行動制限中の患者については、主治医だけでなく指定医も加わり、現状で良いのか最低半年に1度チェックをすることになっている」との説明を受けた。(病院：週一回以上の診察時に主治医が任意入院の閉鎖処遇、隔離や身体拘束の見直しを毎回行っており、職員の説明が適切ではありません。周知するよう努めます。)

⑶　C2病棟の詰所内には週間医師勤務一覧表があり、多くの医師が勤務していることがうかがわれた。患者からは「主治医はこれまでに5人変わった。顔を覚えるのも大変だった」「(自分は)主治医が6年前から変わらず、ありがたい」との声があった。(病院：これまで常勤医が少なく、非常勤医に多くの方を担当してもらう必要があったため、主治医の変更が比較的多かった面があると考えられます。現在常勤医を増やす努力をしており、実際に常勤医は増加傾向にあります。このため今後は同じ医師がもう少し継続して担当できるようになると考えております。ただ医師の多くが大学医局からの派遣により勤務されている実態があり、大学人事での異動のため主治医が変更となるケースを皆無にはできない。)

プログラムについて

「OTには行かない」「とにかく暇」「9時半～11時半はOTしている。行きたいけど許可が出ない」との患者の声があった。E1病棟ではプログラム等もなく、手持ち無沙汰な様子で過ごしている感じの患者も複数名いた。(病院：昨年より作業療法士を増員しています。OTのプログラムも見直しを進めており、今後はより充実したものが可能と考えています。)

金銭の自己管理

金銭を自己管理している患者は少ないようだった。(病院：任意入院で開放処遇制限がない患者については、主治医、担当PSWと相談して可能な限り金銭の自己管理を検討したい。)

院外外出の機会

患者から、「お金がないから売店に行けない」「入院して20年。閉鎖だから外出したことない」「何年も外出をしてない」等、買物以外で外出の機会がない、外出を希望する声が聞かれた。(病院：患者一人ひとりに声掛けを行い、支援を積極的に行います。)

トイレについて

⑴　個室のドアは高さ約150cmだった。鍵の位置が高めで、扉の上から手を入れれば届くようになっていた。(病院：設計の段階からプライバシー保護の面、安全面の両方から検討し設置しています。)

⑵　A1病棟の障害者用トイレの便器の下、E1病棟の男性用便器の下に新聞紙が敷かれていた。尿が飛び散るために敷かれているようだった。(病院：対策について当院でも苦慮しており、清掃を頻回に行う等しながら対策を早急に検討していていきたい。)

隔離室のシーツ交換について

A2病棟の隔離室のベッドのシーツに汚れ(隔離室の外から見て分かるような大きさの黄ばみ)があった。(病院：週1回シーツ交換、汚染時に適時行っています。観察を密にして療養環境の向上と整備に努めます。)

入浴について

10～5月は週2回だった。(病院：今後対策を考慮していきたいと考えます。)

分煙について(A3病棟)

喫煙所は煙で白くなっており、たばこの煙や臭いが病棟内に漏れ、分煙が不十分だった。(病院：現在当院でも禁煙委員会の設置を予定しており、遅くとも2020年までに敷地内全面禁煙を実現する方向で検討しております。)

意見箱について

A3病棟では意見箱の前に空の段ボール箱が置かれているため、意見箱が見にくかった。A3病棟・E1病棟では、紙や鉛筆が置かれていなかった。(病院：人権およびサービス向上委員会で報告をあげ、意見箱を利用しやすい位置に設置を致します。)

精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

422名の入院者のうち統合失調症群が306名(73%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が73名(17%)、気分障害が14名(3%)。入院形態は任意入院171名(41%)、医療保護入院　250名(59%)、措置入院1名(0.2%)。在院期間は1年未満が89名(21%)、1年以上5年未満の患者が126名(30%)、5年以上10年未満の患者が73名(17%)、10年以上20年未満が77名(18%)、20年以上が57名(14%)。

扉よひらけ⑦

大阪精神科病院事情ありのまま 2015

クリック

病院訪問活動から考える 権利擁護

210ページのうち192ページ ほどは 大阪府内の精神科病床のある全病院への訪問活動の報告です。

この本の使い方はいろいろ

「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
「病院訪問活動の視点を知りたい」
「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」

認定NPO 大阪精神医療人権センター 30周年

A4サイズ /210ページ
2,000円

目次

- 大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- 療養環境サポーター制度について
- 各病院の訪問報告
- 各病院の職種別職員数一覧表
- 精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- 入院中の精神障害者の権利に関する宣言

療養環境サポーター 最新報告

人権センターニュース毎号2病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。

電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回2,000円～4,000円／2名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約500万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別年会費

賛助会員
- 障害者 1,000円
- 個人 3,000円
- 団体 5,000円

特別協力会員&寄付 大募集

特別協力会員
- A 10,000円
- B 30,000円
- C 50,000円

会員特典

人権センターニュースの送付 2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等をしることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNSによる情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。

寄付特典

ご寄付をしていただいた場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

税額控除とは？

＊確定申告は最寄りの税務署にご相談ください。
＊大阪府（堺市を除く。）に在住の方は、地方税分も控除されます。
＊控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

寄付金1万円の時	寄付金5万円の時
所得税額 -3,200円	所得税額 -19,200円
実質負担 6,800円	実質負担 30,800円

10,000円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

郵便払込	口座番号 00960−3−27152 加入者名 NPO大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通1485805
現金	講演会会場・事務所にて
クレジットカード	ウェブサイトのみ

こちらより申込書をダウンロードできます
検索 大阪精神医療人権センター
http://www.psy-jinken-osaka.org/
入会・寄付はWEBでも手続きできます。

クリック

お問い合せ

認定NPO法人大阪精神医療人権センター

〒530-0047 大阪市北区西天満5-9-5 谷山ビル9F
TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp